

平成27年度 事業報告書

社会福祉法人 湯河原福祉会
湯河原老人ホーム
ナイスケア湯河原

平成27年度は当法人を揺るがすような重大な出来事がおこり、現場も混乱に陥る状態が続きました。現在、徐々に落ち着きを取り戻してきているとは言えるものの、その余波は未だに爪痕を残しております。私たちは社会に貢献することを課せられた社会福祉法人であり、法人内部でおきたトラブルの為にその使命が全うできないなどと言うことは絶対にあってはならない事です。しかし、現実には厳しく退職者が出た後の人員補充が思うように行かず、決して万全とはいえない人員体制の中、十分な教育ができない状態が続いているのも事実です。平成27年を反省の年と捉え、平成28年度には十分な成果を上げられるよう、まずは人材の確保が急務であり、各種転職セミナーや学校訪問、紙媒体は元よりインターネットでの求人、更には職員に対し紹介キャンペーンなど人材確保に全力を注がなければなりません。

【取り組みについての考察】

1. 通所介護の方向性

小規模通所介護が廃止され、ナイスケア湯河原の通所介護は「地域密着型」ではなく、より多くのご利用者の受け入れが可能となる「通常規模」への移行を決意いたしました。しかしながら、未だ湯河原町は通所介護の事業者が非常に多く、平成28年度は稼働率のアップについて様々な研究と工夫が要求されます。その一つと致しまして、以前より一部居宅介護支援事業所より要望を頂いておりました熱海の泉地区を平成28年度より送迎地域に加え新規ご利用者の獲得を目指します。

2. 人材育成と教育

残念ながら人員確保がままならず、各フロアや入浴など厳しい人員配置にならざる終えない状況が続いております。こうした状況の中、職員を集めての研修会や勉強会の開催は難しく、わずかに空いた時間での短時間の研

修や個人個人へのレクチャー、プリントによる回覧形式の研修にとどまっております。但し虐待や感染症に関しては勤務時間外の時間を使い行っております。

3. マイナンバーについて

様々な業者のシステムを比較検討し極力使い勝手の良いシステムを選択、事務所内で担当者を決定し運用は始まっております。今後取り扱いについての様々な問題が発生することが予想され、その都度万全な対応策を検討することが要求されます。

4. 設備の維持更新

目標とした照明器具のLED化やプロパンガスによる発電システム、エアコンの入れ替えは完了しました。しかし、建物や設備全般の老朽化は否めず、今後も補助金制度等を活用し順次効率よく買い替えやメンテナンスを行っていきます。

5. 重度者家族への支援

組織の体制が変わって以降、相談件数も格段に増加。緊急ショートステイの受け入れや、家族の虐待による措置入所の受け入れなども行いました。こうした困難ケースを快く受け入れることにより、居宅介護支援事業所のケアマネージャーからの信頼も厚く、稼働率は安定的に高水準で推移しております。

6. 地域機関の連携

今後社会福祉法人に対しては、地域にはどのような問題があるかなどを社会福祉法人自身が抽出し、人材や資材の一部を投じ解決に当たることが求められています。その為の準備として、平成27年度は地域で開催される「地域包括ケア会議」等には積極的に職員を派遣、地域住民の皆様や他介護事業者、医師等との連携につとめてまいりました。今後益々地域との連携が問われる時代となってくることが予想され、社会の要求に合わせ対応できる柔軟性を培う努力をして参ります。

【まとめ】

平成27年度は当法人にとって激動の1年であったと言えます。しかし、この事をきっかけに原点に立ち戻り、経営層、現場職員が一丸となって、益々増え続けるであろう社会福祉法人に向けた社会の要求に対し、前向きに取り組む事が必要となります。そのためには定職率を上げ、安定的に人材の確保を行い、計画的に職員教育を行うことが重要と言えます。

ご利用者様が安心、安全に過ごせる環境を整えることはまた、職員の精神的な安定そして経済的な安定があってこそ初めて達成されるものであると考えるべきだと考えます。湯河原福祉会での働きがいを感じてもらえるよう、福利厚生の実施も図らねばなりません。職員一人ひとりの能力を客観的に正しく評価できる、更には、評価する側もされる側も納得感のある人事考課規定の構築は、職員のモチベーションを上げるためにも最重要課題とも言えるかもしれません。

平成27年度は苦悩の年度と言わざるを得ませんでした。平成28年度は新たな歩みの年となるよう、職員一丸となって様々な問題に取り組んでゆきたいと考えます。